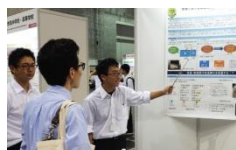


全国 74 校中の 24 校に選ばれる快挙！ 飯山高校が平成 28 年度の SSH（スーパーサイエンスハイスクール）校に再指定！

去る3月26日(土)、本校が文部科学省によりスーパーサイエンスハイスクール(以下SSHと略記)に指定されたとの連絡を県教育委員会から受けました。SSH事業とは、先進的な科学技術・理数教育を通して、生徒の科学的能力や科学的思考力を培い、将来の国際的な科学技術系人材を育成するための教育課程を研究開発する取組です。飯山北高校で、平成22年より平成26年度まで第1期の取組を実施してきましたが、平成27年度は経過措置の扱いで、飯山高校としてSSHのあり方を見直し、今求められている教育の方向性を十分に研究して平成28年度の実施計画書を練り上げました。その内容が認められ、全国74校の申請校のうち、本校を含む24校が採択される名誉を勝ち取りました。長野県では、屋代高校と飯山高校の2校が、指定校となり本県の理数教育を牽引します。



本校では下記のようなテーマを設定し、課題研究を中核に据えて各教科の授業との相乗効果を図り、高い志と課題発見力の育成を図る教育プログラムの開発とその評価方法の研究を実施して参ります。このことは、今後求められる高校教育改革の先端を行くものであり、予定されている高大接続の改革にも対応できる力を育成する取組でもあります。探究科だけでなくスポーツ科学科や普通科でも課題研究に取り組み、SSHの教育プログラムに沿った学習活動を実施します。他校や大学との連携、海外研修のあり方についても研究し、2期目のSSHの成果を生徒に還元していきたいと思ひます、



キーワードは「課題発見力」と「高い志」が未来を創る！

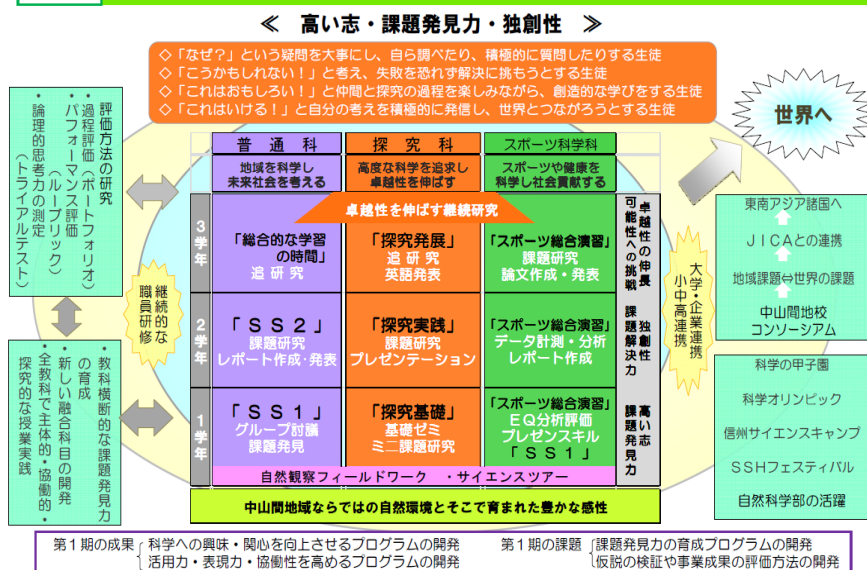
第2期のSSHでは、「課題発見力を高めるプログラムとその評価方法」の研究を中心に据えて取り組みます。課題研究を全学科で行うと共に、授業改善をすべての教科で行い、生徒が主体的に、協働して学ぶ力を養います。（下の概要図をご覧ください。）

長野県飯山高等学校 第2期スーパーサイエンスハイスクール



全県の課題研究から2グループが代表に

研究開発課題 中山間地の利点をいかした、高い志と課題発見力で未来を創造する科学技術系人材の育成



3月13日(日)、信州大学理学部で開催された信州サイエンスミーティング(課題研究合同研修会)において、本校探究科の生徒の研究が2部門で優秀賞を獲得し、7月末に行われる全国総文祭の自然科学専門部の大会で発表することになりました。

研究発表は、物理・生物・化学・地学の4部門で行われ、県内の理数科・SSH校や工業高校など11校から21作品がエントリーされました。

地学部門で「松川における鉄分沈殿の化学的メカニズムの解明」を発表した宇田・梨元・萬場・上倉のグループと、物理部門で「雪国の建築構造と免震性」を発表した佐藤・塩入・南雲のグループがそれぞれの部門で優秀賞を獲得し、全体でも「松川の～」研究グループが最優秀賞となりました。本校から、2つの研究が選ばれたのは、快挙であり第2期のSSHの取組にも弾みがつきました。

本校の探究活動に関して、日々の地道な積み重ねが、花を咲かせようとしています。これからの活躍を御期待下さい。

本校の探究活動に関して、日々の地道な積み重ねが、花を咲かせようとしています。これからの活躍を御期待下さい。

自然観察フィールドワークの実施

5月30日(月)、探究科は十日町里山科学館で、普通科とスポ科はなべくら高原森の家で、自然観察フィールドワークを行いました。事前調査→現地での観察とデータ収集→まとめと発表→レポート作成という一連の探究学習で、アクティブラーニングを展開しました。1年生の「探究基礎」そして「SS1」のスタートです。

まずは楽しむ学びから、「知的好奇心」と身近な自然に関して「なぜ？」という疑問呼び起こしたいとプログラムを実施しています。

